

おはようございます。9月に入りましたが、連日、暑い日が続いています。夏バテに陥っていませんか。この2学期も、30度を超える暑さが予想されていますが、これから気温は徐々に下がり、12月の終業式を迎える頃には厳しい寒さとなっていることでしょう。この2学期は、1年の中で、一番季節の移ろいを感じることができる時期です。最近では、10月に入っても暑い日が続き、気が付いたら突然冬になっていたというように秋が大変短くなったように感じます。野津田の丘は、緑に囲まれています。周囲の山々の色、鳥のさえずり、虫の声などがどのように変わっていくか、五感をフル稼働して感じ取ってほしいと思います。

さて、夏休み前の終業式で私が皆さんにお願いしたこと覚えていますか。「この夏休みの目標を立ててください。夏休みが終わるころに少し成長した自分に出会ってください」と話しました。どうでしょうか。どんな変化がありましたか。もしかしたら、「何の目標も立てずに、だらだら過ごしてしまった」と後悔している人がいるかもしれません。勉強にしてもスポーツにしても、一朝一夕で身につくものではありません。何かを成し遂げるには長い年月と覚悟が必要です。小さな目標を立てて、それを実現させるための努力をする。それを重ねることで、いつの間にか、資格を取得した自分、検定に合格した自分、レギュラーを勝ち取った自分など、さまざまな成長した自分に出会えるのです。「夏休みの目標を立てる」ことは、まさに、その小さな一歩であったのです。

こんな言葉を聞いたことはありませんか。

「木を植えるのに最も良い時期は 20 年前だった」。どういことかわかりますか。

木は成長するのにとても時間がかかります。もしも20年前に植えておけば、今ごろ大きく成長して、庭に心地よい木陰を作ってくれたかもしれない、たくさんの実をつけていたかもしれない、と後悔する気持ちの表れです。皆さんが、「夏休みにあれをやっておけばよかった」と後悔するのと同じです。しかし、この言葉は後悔を語るための言葉ではありません。実は、この言葉には続きがあります。それは、

「木を植えるのに最も良い時期は 20 年前だった。次に良い時期は今である」。わかりますよね。20年前に戻って木を植えることは誰にもできません。できることは、「今」植えることです。そうしないと、今から20年後にも、「ああ、20年前に植えておけばよかった」と同じ後悔をすることになります。

今日は始業式です。新しい学期の始まりです。この2学期をどのようにスタートさせるのか。具体的には、明日からの授業にどう臨むのか、部活動にどう取り組むのか、考える機会にしてほしいと思います。誰にでも後悔や失敗はあります。しかし、その過去を変えることはできません。変えられるのは未来です。未来に向かって一歩を踏み出したその先に、まだ見たことのない自分、つまり「未見の我」との出会いがあります。では、その一歩をいつ踏み出しますか。答えは、「今」です。明日からの、皆さんの行動の変化を期待しています。